

医療安全管理室

診療科・部門案内

医療安全管理室は、医療の安全確保のための活動に組織的に取り組むための統括・調整部門です。専任の看護師及び事務員と兼任の医師、薬剤師、放射線技師、看護師、臨床工学技士がチーム一丸となって次のような業務を行っています。

●インシデントレポートを収集・分析し、事故防止に努めています。

院内LANによる報告システムを導入し、インシデントレポートを迅速に集約できるので、素早い対応が可能になっています。集約されたレポートを様々な手法で分析して原因を究明し、事故防止に役立っています。

●医療安全に関する職員研修を行っています。

安全文化の確立を目標とし、医療事故防止のための様々な院内教育活動を全職員対象に行っています。その一つに危険予知トレーニング(KYT)があります。医療行為は様々な危険と隣り合わせです。その危険を発見し解決することが医療安全につながっていくとの考えから、危険を予知する訓練を積極的に行っています。

●間違いを防ぐため「指差し呼称」を行っています。

医療現場では1つの間違いが重大な結果を招く恐れがあります。声に出して、指を差して確認することにより、ミスは6分の1に減少すると言われています。

治療や処置時に名前や内容の間違いを防ぐため患者さんと一緒に確認させていただいています。



医療+安全



インシデントとは

なるほど
納得!
豆知識

日常診療でのヒヤリとしたりハッとしたりに要注意!

インシデントとは、患者さんに傷害を及ぼすには至らなかったが、日常診療の現場でヒヤリとしたりハッとしたりした出来事をいいます。

インシデントをレポート(報告書)として収集し、分析を行い、対策を講じることにより医療事故(アクシデント)の発生を未然に防ぐシステムを構築することが、医療安全の確保を図る上で重要です。事故と災害の関係を示したハインリッヒの法則によれば、1件の重大な事故のかけには29件の軽い事故が、さらにその背後には300件のミスが存在する可能性があるといえます。

発生した事例を患者様への影響度により分類し、職員からレポートを収集し、分析することにより再発の防止に役立っています。



ハインリッヒ
1:29:300の法則